

# 要援護世帯除雪費助成事業、降雪期までに見直しを！

## 日本共産党議員団の平良木市議が要求

市議会厚生常任委員会は7日、福祉部関連の決算審査を行いました。ここでは、成年後見制度、民生委員・児童委員活動費、市民いきいの家の温浴施設の在り方、要援護世帯除雪費助成事業の見直し、相談支援事業、移動支援事業、高齢者外出支援事業などで活発な質問が展開されました。

このうち、民生委員・児童委員については、市内の9地区で欠員が出ています。市は県に対して、対象世帯が300を超える地区の分割、委員の増員を要望しているとのこと。しかし県は、この要望に応じようとはしていません。県の行財政改革推進に逆行するというのがその理由らしいのですが、問題ですね。

要援護世帯除雪費助成事業について、これまで市は、「多雪地域」と「その

他」の区分の見直し、最高限度額の見直しを表明してきていましたが、少雪を理由に先送りしていました。今回、日本共産党議員団の平良木委員がこの問題を取り上げ、今年度の雪に間に合うよう急ぐべきだと訴えました。市は、「いま、令和2年、令和3年の大雪時の利用実績を分析している。できるだけ降雪期に間に合うようにしていきたい」と答えていました。

高齢者外出支援事業は、「閉じこもりによる体力低下及び認知症の予防」が目的ですが、平良木委員は、「実際には通院に使っている人が多い。通院費の助成も検討すべきではないか」と質問しました。これに対して市側は、「実態を把握するなかで、改善すべきことがあれば改善していきたい」と答えました。



津島市では、今回の9月定例議会で、「お出かけタクシー制度」を補正予算に盛り込み、75歳以上の人、障がい者、妊婦などを対象に半額助成を実施していく予定とのこと。もっと対象を広げ、高齢者の移動支援をしていくことが求められていますね。



7日の厚生常任委員会では、請願審査も行われました。請願は名立区の池田千尋さんから提出された生活保護世帯への支援を求める内容です。

池田さんは、「(平成30年6月27日の厚生労働省の通知によって)平成30年4月1日以前から保護対象となっている世帯には、冷暖房機器取得に関する費用が支給されないが、冷暖房が使用できるかどうかは命に係わる問題だ。については、市独自の支給をしてほしい」と請願しま

### 生保世帯でのエアコン設置助成請願、委員会では不採択

委員会では、池田さんによる趣旨説明の後、各委員がそれぞれの考えをのべました。請願の採択に賛成の委員からは、「エアコンは気候変動の中で生活必需品。同じ生保世帯で差をつけるのは問題だ。国が制度を直すべきだが、まずは、必要だという人に対して、市が費用を出して改善を」「厚生労働省が通知を出す段階で、その年以降に生保世帯となったところだけにだすとしたことが問題だ。また、最初の年に申請をしなければ対象にしないというもおかしい。市も通知の改定を求めている。国の通知を直させるためにも、まずは市で取り組むべきだ」などの表明がありました。一方、採択に反対した委員は、「当市では個別に対応されている。使ってほしい人がなかなか使えないなどの課題もある。しっかりと調べて、課題を見極めて進むことが必要だ」などとのべました。

採決の結果、採択に賛成したのは鈴木委員、牧田委員、平良木委員の3人。残りの4人は反対でした。この請願については、27日の本会議で採択されるかどうかが決まります。



【シロバナヤブラン】キジカクシ科の多年草。漢字で「白花薔蘭」と書きます。草丈は30～50㍉。ヤブランは紫色の花しか見たことがなかったので、別の品種かと思いました。花期は6月～10月です。花の色はもちろん白。小さな花をたくさん咲かせます。花言葉は「忍耐」「謙遜」。写真は9月10日、吉川区坪野にて撮影しました。

# はしづめ法一の活動レポート

**No.2077 2022.9.18**  
 発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず  
 Tel 025-548-3628  
 通じないときは 090-5392-1961  
 E-mail hasiznyg\_0808@yahoo.co.jp  
 URL <http://www.hose1.jp/>

QRコード  
 ブログ「ホーセの見たる記」はこちら



# 春よ来い

## 第七二四回

### 母は目を開けた

母の病室に入って三〇秒経つか経たないかという時間でした。母に声をかけようとしてベッドのそばまで行ったところ、母が目をぱちりと開けたのです。

先月下旬に、完全に点滴生活になり、眠り続ける生活になってから、十七日目のことでした。時刻は午後二時十五分頃です。

すぐに母の顔のそばに行き、「とちやだよ、見えたかね、とちやだよ。りんちゃんも来てるよ」と声をかけました。母は私の顔をじっと見てくれました。声を出すこともできない。うれしそうな笑顔になることもできません。でも、目はちゃんと私を見ていて、私には、母が喜んでいることがわかりました。いまにも「とちやか」と言い出しそうな表情になっていたからです。

とつねに「長女の顔も見てもらいたい」と思ったのですが、残念ながら、母にはそれ以上目を開ける力は無く、再び閉じてしまいました。

この時、一緒に病室に入ったのは病院スタッフの女性の方と長女の二人でした。スタッフの方は、母が目を開けたときのことかわかったらしく、「視線が合いましたね」と言っていました。

じつは、母が目を開けないようになってから十二日目にもうっすらと目を開けたことがありました。このときもうれしくて、「ばちや、見えたかね。ほら、もっかい見えてみない。とちやの顔、見てみない」と催促すると、母は目を動かし開けようとした。そのときの様子を動画で撮りましたので、弟たちにも送信しました。

でも、それきりだったのです。目を開けようとしたのは。その後、二回ほど母と面会し、声をかけましたが、目を開けてはくれませんでした。

そのかわり、母は長女にたいしては手で反応してくれました。脳梗塞で左手は動かないので、右手はどうかと手を握ったところ、握り返してくれたといつのです。

こういふ明るい、希望を抱かせてもらえる出来事がありました。母の体力はその後衰退していききました。変化が見えたのは手です。両方の手がともにはれてきたのです。近いうちに手からは点滴できなくなるのではないかと心配しています。

この日は、母を自宅で見守りたいということから、おむつの替え方などを実際を病院スタッフの方から教えていただくことになっていました。母は元々体が小さく、介護しやすいと思っていたのですが、なかなか面倒でした。おむつひとつ替えるにも手順があり、「コツがあるんですね。」

おむつ替えを実際に行う少し前には、担当のお医者さんも病室に来てくださり、最新の病状について説明してくださいました。一番気になったのは血液検査の結果です。ヘモグロビンの数値がこれ以上低くなるとはいけないというところまで下がっていたのです。お医者さんからは、「胃のなかで出血しているかも知れません。お母さんの心臓はよく頑張っています」と言われました。

こういう病状ですから、目を開けたことで喜んでばかりはいられないのですが、それでもうれしく、今回も二人の弟などにすぐ連絡しました。

「ばちや、目、ぱちちり開けたよ。今度は俺の顔わかったげらだ」

私からの電話にすぐ下の弟は、「明日、仕事休みだすけ、そっちに行こうかな」とも言いました。実際には来ませんでした。母が目を開けたことの喜びは弟も大きかったんですね。

看護師さんによると、その後、母は少なくとも一回は目を開けたといえます。その時、おそらく家族の顔を探したに違いありません。今度、目を開いたときには、家族の誰かがそばについてあげたいです。

## 久しぶりにコウノトリ飛来

4日、吉川区原之町の田んぼにコウノトリが来ていることをHさんから教えていただきました。

2羽のうち1羽は2019年4月19日日、京丹後市生まれのオスです。登録番号は「J0 2 3 9」、この鳥は昨年も吉川に来ていました。もう1羽は2021年4月2日、越前市生まれのメスです。登録番号は「J0 3 4 4」です。とても仲の良さそうなカップルでした。



## 今年もオニバス開花か

今月の10日、吉川区小苗代池でオニバスを探したところ、見つけました。2年連続です。

今年は水草が広がっていて、なかなか姿を確認できなかったのですが、カメラの望遠を使い、オニバス特有の二ぼこのある葉の姿を発見しました。

12日には、オニバスの花のつぼみ(写真)を2か所で見つけました。



## ニュースフラッシュ

### 上越地域各消防署における空間放射線量率測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。

消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	9月7日(水)	9月14日(水)
上越南消防署	0.057	0.047
上越北消防署	0.040	0.043
新井消防署	0.050	0.040
頸北消防署	0.053	0.050
頸南消防署	0.063	0.063
東頸消防署	0.040	0.047
名立分遣所	0.063	0.050
高士分遣所	0.053	0.050